

Hem21 NEWS

公益財団法人
ひょうご震災記念21世紀研究機構
ニュース

「Hem21」は、ひょうご震災記念21世紀研究機構の英語表記である
Hyogo Earthquake Memorial 21st Century Research Instituteの略称です。

VOL. **54** 平成27年 (2015) 11月

CONTENTS

- ①～② 第16回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催
- ③ 第5回自治体災害対策全国会議を開催
- ④ 人口減少、少子・高齢化社会における高齢者の可能性
- ⑤ 情報ひろば
- ⑥～⑧ 人と防災未来センター MiRAI

第16回アジア太平洋フォーラム・淡路会議は、「アジアの未来—政治・経済・文化—」をテーマに7月31日～8月1日、淡路夢舞台国際会議場（淡路市）で開催されました。



国際シンポジウムの様子

1日目の国際シンポジウム（一般公開）では、248人の参加の下、アジア太平洋地域に関する優れた人文・社会科学領域の博士論文を顕彰する第14回アジア太平洋研究賞（井植記念賞）の授賞式を行った後、3人の講師に記念講演をしていただきました。

福田康夫氏（元内閣総理大臣）は、「アジアの未来と日本の役割」と題し、アジアにおける経済成長、高齢化について触れた後、「アセアン諸国は大きなトラブルもなくまくやっている一方、日本を中心とした経済規模の大きい地域でいがみ合っており、丁寧に解決していかなければならない。また、中国の台頭が国際社会で問題となっているが、急速な経済成長を遂げて他国に脅威を与えた過去の日本と同様、どう身を処していくべきかを中国自身がよく認識していないことが原因ではないか。中国について考えるときは、13億人の国民を統治するという大国ならではの運営の難しさがあることを考慮すべきである。日本と一番近い国々との関係をより良好にすることが優先課題であり、過去の歴史問題はここで清算し、将来の展望をお互いに考えていくべきである」と述べました。

第16回アジア太平洋フォーラム・淡路会議を開催

白石隆氏（政策研究大学院大学学長）は、「21世紀のアジア」と題し、「21世紀に入り、長期の趨勢として、力の均衡の変化（G7の地盤沈下と新興国の台頭、アジア太平洋の比重の増大、中国の台頭）とグローバル化の進展（国境を越えた資本移動など）が起こっている。21世紀のアジアにおいては、①力の均衡が重要になるほど、大陸部東南アジアと島嶼部東南アジアというように、海と陸が地政学的に違う空間として分かれるということ②「中国の夢」のように国家の栄光を目的とする政治なのか、「アメリカの夢」のように国民の生活水準の向上を目的とする政治なのかますます問われるようになること③国が個人の期待に応えなければ、優秀な人材は外国に流出してしまうということに留意すべきである」と述べました。

シャンドレ・タンガバル氏（オーストラリア・アデレード大学准教授）は、「アセアンの新たな課題：熟練とグローバルバリューチェーン（GVC）」と題し、「アセアン諸国は成長しているものの国内で所得格差が拡大しており、格差を解消するにはどのように熟練工を増やすのか、スキルを開発するのが重要で、アセアン経済共同体（AEC）発足後の課題として、アセアンはもっと教育に投資すべきである。今後の政策提言として、①サービスの自由化促進②技能開発③中小企業の育成などが必要である」と述べました。

2日目は、淡路会議メンバー等61人の参加の下、フォーラムを開催し、3人の講師に基調提案をしていただきました。

高原明生氏（東京大学大学院法学政治学研究科教授）は、「日本とアジアの対話の可能性」と題し、「戦後70年経った今日、第二次世界大戦後に形成された国際秩序に動揺が起きており、日本は近隣のアジア諸国といかなる新しい秩序を築いていくのかという大きなビジョンについて、第二次世界大戦から人類が得た教訓を基礎に、積極的な対話を行っていくべきである。日本は、戦争で加害者であったことを決



フォーラム・基調提案の様子

して忘れてはならない。戦後70年に当たっての全世界的なテーマは相手への憎悪と警戒ではなく、和解と協力でなければならぬ」と述べました。

大野泉氏(政策研究大学院大学教授)は、「海外展開の新時代、アジアとの『ものづくりパートナーシップ』の提案」と題し、ものづくり中小企業の海外展開の背景や進出先であるタイ、ベトナムの状況に触れた後、日本政府や地方自治体において将来ビジョンについての議論が必ずしも十分でないことから、「海外展開の新時代を切り開く指針として、①新産業の創出②日本型ものづくりの国外での継承と発展③町工場をグローバル企業に育てる④後発国との対等なパートナー関係の構築⑤ものづくりパートナー国の選定と集中的支援を提案したい」と述べました。

近藤誠一氏(近藤文化・外交研究所代表)は、「アジアの人と文化の交流—歴史的・文明的視点から—」と題し、「約400年前に成立した主権国家は、民族、文化の広がりとは必ずしも一致しない支配体系であり、国家と人間

の活動との関係には、もともと無理があったものだが、市民が自由と通信手段を得たことによって、ずれが表面化してきた。一人一人が心の中に持っている善性を引き出し、それを横につなげることによって、主権国家が直面している限界を乗り越えることができるのではないか。アジア地域にヨーロッパにある学生の留学・交流促進のためのエラスムスプログラム、そして若いアーティストを招いて自由に創造活動と交流をさせるアーティスト・イン・レジデンスを導入すべきである」と述べました。

基調提案の後、参加者は「東アジアにおける政治的コミュニケーションの再構築」「経済の連携とネットワーク」「アジアの人と文化の交流」の3つの分科会に分かれ、それぞれのテーマで活発な議論が展開されました。

午後からの全体会では、初めに議論の概要について各分科会の座長から報告をいただいた後、参加者でさらに議論を深め、最後に五百旗頭真〔(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長〕から総括と謝辞が述べられ閉会しました。



フォーラム・全体会の様子

■国際シンポジウム(7月31日)

◆記念講演

コーディネーター：片山 裕(京都ノートルダム女子大学副学長)

- ①アジアの未来と日本の役割
講師：福田 康夫(元内閣総理大臣)
- ②21世紀のアジア
講師：白石 隆(政策研究大学院大学学長)
- ③アセアンの新たな課題：熟練とグローバルバリューチェーン(GVC)
講師：シャンドレ・タンガベル(オーストラリア・アデレード大学准教授)

■フォーラム(8月1日)

◆基調提案

コーディネーター：窪田 幸子(神戸大学大学院国際文化学研究科教授)

- ①日本とアジアの対話の可能性
講師：高原 明生(東京大学大学院法学政治学研究科教授)

- ②海外展開の新時代、アジアとの「ものづくりパートナーシップ」の提案

講師：大野 泉〔政策研究大学院大学教授、(一財)アジア太平洋研究所 所長〕

- ③アジアの人と文化の交流—歴史的・文明的視点から—
講師：近藤 誠一(近藤文化・外交研究所代表、前文化庁長官)

◆分科会

第1分科会「東アジアにおける政治的コミュニケーションの再構築」

座長：大西 裕(神戸大学大学院法学研究科教授)

第2分科会「経済の連携とネットワーク」

座長：阿部 茂行(同志社大学政策学部教授)

第3分科会「アジアの人と文化の交流」

座長：片山 裕(京都ノートルダム女子大学副学長)

◆全体会

コーディネーター：村田 晃嗣(同志社大学学長)

◆総括と謝辞

五百旗頭 真〔(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構理事長、前防衛大学校長〕